

緑化テールアルメ工法

【NETIS】TH-990034-VE

福岡 熊本 佐賀 長崎 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

緑化テールアルメ工法(テラトレールF2工法)はテールアルメ工法の技術を適用しており、安全性に優れた高盛土の傾斜壁面の構築が可能です。また壁面材にメッシュパネルを使用しているため緑化することができます。メッシュパネルは経済性の高いシンプルな形状を採用し、パネル自体の自立性が確保されているので施工性にも優れています。

特長

実績多数

■緑化テールアルメ工法の構造原理はテールアルメ工法と同じであり、その技術は数多くの実績に裏付けられています。

やさしい印象

■傾斜壁構造の為、視覚的圧迫感を軽減し、また緑化された壁面は自然に融和し無機質な冷たさを和らげます。

設計の自由度

■壁面傾斜角は任意(1:0.2~0.6)に設定できるため立地条件に応じた設計が可能です。

優れた経済性

■部材の数は少なく、また全てシンプルな形状のものを採用しているため経済性に大変優れています。

施工の効率化

■メッシュパネルは軽量で、しかも自立性が確保でき効率の良い施工が可能です。

軟弱地盤対応

■壁面材にメッシュパネルを使用したフレキシブルな構造のため追随性に富み、比較的軟弱な地盤においても施工可能です。

施工手順



メッシュパネル
組み立て
植生材取付け



ストリップ
敷設



敷きならし
盛土材のまきだし
締め固め



完了

基礎敷砂工

掘削された基礎底面はストリップの敷設面として有害な不陸がないよう整地します。特に敷砂の施工については水平度に留意して行います。

メッシュパネルは上下連結フックを取付けることにより所定の勾配が確保できます。

連結フックを取付けた後、所定の長さのストリップをヘアピンに挿入し、ボルトナット(M12×40)を用いて固定します。ストリップは水平かつ極端な凹凸が生じないように敷設します。

盛土材のまきだし、敷きならしは1パネルを3層で仕上げるように転圧を行います。ただしパネル直近1.0m以内の転圧については小型機械を使用してください。

